

no.	img.	Artist	Genre	Title	Media	Year / Size	販売方法	主な展覧会・作家コメント
1		枝史織 Shiori Eda	絵画 Painting	囲いに火をつけて I Set fire to the frame I	油彩、パネル Oil on panel	2023 20.0 × 20.0 cm	先着順	1983 東京都に生まれる 2010 東京藝術大学大学院絵画専攻修了 http://bunkyo-art.co.jp/artists/ShioriEda.html
2		西岡良太 Ryota Nishioka	絵画 Painting	繁栄の極みか？或いは猫 鼠の極みか？IV The highest prosperity or extremity of rage? IV	アクリル、紙、 パネル Acrylic, paper on wood panel	2023 51.5 × 72.8 cm (P20号)	先着順	1985 愛媛県に生まれる 2004 高知大学人文学部国際社会コミュニケーション学科卒業 【作家コメント】 爆発的な人口増加によって土地の奪い合いになったとしたら、人間はその活動 領域を狭くは無く縦に広げる必要に迫られるかもしれない。地下深くへと続く巨 大な穴に居住空間や工場が構築されるとしたら？地に足をつけて暮らすことが できるのが一部の人間だけになるとしたら、どうだろうか？どんな過酷な環境で あっても活動領域を広げてゆこうとする人間のしたたかさ、自然環境にとつて は脅威そのものかもしれない。そのような人間社会を、自然の猛威を克服した繁 栄の極みと見るべきだろうか？それとも、自然環境を侵食してゆく猫鼠の極みと 見るべきだろうか？ 【作家コメント】 恒常性・永続性といった言葉は肯定的なものとして解釈されがちだがそれは同 時に、犯してしまった罪を消えることのない形として永久に留め続けることを意味 している。土の中から採掘された鉱物資源で構築され繁栄を極めたこれらの建 造物群は、再び土に還ることも許されず墓標のようにその屍を晒し続けることにな るだろう。
3		西岡良太 Ryota Nishioka	絵画 Painting	sin forest V	アクリル、紙、 パネル Acrylic, paper on wood panel	2022 72.8 × 51.5 cm (P20号)	先着順	http://bunkyo-art.co.jp/artists/RyotaNishioka.html
4		中村宏 Hiroshi Nakamura	絵画 Painting	セーラー服 Sailor-style uniform	油彩、キャンバス Oil, canvas	2002 45.5 × 53.2 cm (F10号)	先着順	1932 静岡県浜松市に生まれる 日本大学芸術学部美術学入学 1951 「Tokyo 1955-1970: A New Avant-Garde」 2012 (ニューヨーク近代美術館) 「美術にぶるっ！ ベストセレクション日本近代美術の100年」(東京国立 近代美術館) 「絵画者 中村宏展」(浜松市美術館) 2015 「美術は語られる一評論家・中原佑介の眼一」 2016 (DIC川村記念美術館) 「絵画は告発する」(板橋区立美術館) 他、展示多数 2017 【所蔵】 東京国立近代美術館、練馬区立美術館、板橋区立美 術館、刈谷市美術館、東京都現代美術館、静岡県立 美術館、名古屋美術館 http://bunkyo-art.co.jp/artists/HiroshiNakamura.html
5		小山田二郎 Jiro Oyamada	絵画 Painting	夜のアパート Apartment at night	水彩、紙 Watercolor, paper	1958 34.8 × 25.9 cm	先着順	1914 中国安東県(現遼寧省丹東市)に生まれる 1919 遠縁の日本画家・小堀鞆音から透明水彩を学び始め 2017 展「小山田二郎展」(栃木県立美術館) 2005 「生誕100年 小山田二郎」(府中市美術館) 2005 「異形の幻視力 小山田二郎展」(高崎市美術館) 2005 「異形の幻視力 小山田二郎展」 (東京ステーションギャラリー) 1994 「小山田二郎展」(栃木県立美術館) 1994 「小山田二郎展」(小田急美術館) 他、展示多数
6		小山田二郎 Jiro Oyamada	絵画 Painting	一揆 Uprising	水彩、紙 Watercolor, paper	1955 34.4 × 25.4 cm	先着順	【所蔵】 愛知県美術館、いわき市立美術館、大川美術館、 国立国際美術館、高崎市美術館、高松市美術館、 東京国立近代美術館、館、東京都現代美術館、 徳島県立美術館、栃木県立美術館、富岡市立美術館、 府中市美術館、富山県立近代美術館、名古屋美術館、 奈良県立美術館、横須賀美術館、新潟市美術館、広島県立美術館 http://bunkyo-art.co.jp/artists/JiroOyamada.html
7		小山田二郎 Jiro Oyamada	絵画 Painting	赤い丘の見える風景 View with a Red Hill	油彩、キャンバス Oil, canvas	1961 53.0 × 72.7 cm (P20号)	先着順	http://bunkyo-art.co.jp/artists/JiroOyamada.html
8		小山田二郎 Jiro Oyamada	絵画 Painting	動物のアパート Animal apartment	水彩、紙 Watercolor, paper	1956 25.4 × 34.4 cm	先着順	
9		小山田二郎 Jiro Oyamada	絵画 Painting	壕生活者 Shelter dweller	水彩、紙 Watercolor, paper	1969 28.0 × 37.5 cm	先着順	
10		平賀敬 Key Hiraga	絵画 Painting	THE ELEGANT LIFE OF Mr.H No.11	油彩、キャンバス Oil, canvas	1968 45.6 × 38.2 cm (F8号)	先着順	1936 東京都に生まれる 1959 立教大学経済学部卒業 1965 渡仏、以後パリを拠点にヨーロッパの画廊、 美術館で意欲的に作品を発表 2000 現代の絵師 平賀敬のアヴァンギャルド 戯作画展 (平塚市美術館) 1993 「芸術と日常」—反芸術／汎芸術—(国立国際美術館) アートエキサイティング'89 1989 (埼玉県立近代美術館、クイーンズランド美術館) 1960-1970年代の現代絵画の20年(群馬県立近代美術館) 1960年代—現代美術の転換期(京都国立近代美術館) 1982 サロント・ボザール展(パリ国立近代美術館、フランス) 1974 日本の新しい絵画と彫刻展(サンフランシスコ美術館、 ニューヨーク近代美術館他、全米6館を巡回) 他、展示多数 1967 【所蔵】 ニューヨーク近代美術館(MoMA)、ビクトリアアルバート美術館(イギリ ス)、ハーレム美術館(オランダ)、ルンド美術館(スウェーデン)、大原美 術館、京都国立、国際美術館、神奈川県立近代美術館、国立国際美術 館、佐久市立近代美術館、世田谷美術館、高松市美術館、東京国立近 代美術館、東京都現代美術館、徳島県立美術館、豊橋市美術館、 平賀敬美術館、萬葉五郎記念美術館 http://bunkyo-art.co.jp/artists/KeiHiraga.html

11		山田航平 Kohei Yamada	ドローイング Drawing	「火宅無常ワールド (ユニテ)」のための エスキース Esquisse for "KATAKU MUJO World (Unite)"	鉛筆、ペン、紙 Pencil, pen, paper	2023 30.9 × 21.8 cm	抽選販売 1990 北海道に生まれる 2016 広島市立大学芸術学部博士前期課程修了
12		山田航平 Kohei Yamada	絵画 Painting	火宅無常ワールド (ユニテ) KATAKU MUJO World (Unite)	アクリル、紙 Acrylic, paper	2023 91.0 × 72.7 cm (F30号)	抽選販売 【作家コメント】 この作品では、ル・コルビュジエを意識した人物が、世界遺産にもなっている超名作集合住宅「ユニテ」を模した燃えるスツールに座っています。人類史に刻まれるようなアイコン的な有名な、名品もいくつかは夢く消えゆくことあることを拾って、可愛く描きたいと思いました。優さをより強調するべく、ヴァニタス画のモチーフのひとつである煙(今作ではタバコでも)も登場させてみました。
13		山田航平 Kohei Yamada	ドローイング Drawing	「火宅無常ワールド (サヴォア)」のための エスキース Esquisse for "KATAKU MUJO World (Savoie)"	鉛筆、ペン、紙 Pencil, pen, paper	2023 30.9 × 21.8 cm	抽選販売 【作家コメント】 目的もなく苦しみの海を漂うこと(仏教における人生の例えのひとつ【生死の苦海ほとりなし】)についての絵「苦海ドリフター」を以前に描きました。その系譜で、今回は人生を燃える家に例えた作品を描いてみました【火宅無常の世界】。この世に生きるとは火事の最中の家に似ており、いずれ夢く消え落ちる夢の如くであり、その中で音や名声のために奔走し争い合うことは悲しい、という考えが仏教にはあるようです。このような例え話の詩的な語彙にとでも惹かれます。また、飯の宿り(家の中・身につける物)の装飾に労を費やす欲深い私にはグサッと刺さる言葉であります。この作品では、ル・コルビュジエを意識した人物が、世界遺産にもなっている超名作住宅のサヴォア邸を模した燃えるスツールに座っています。人類史に刻まれるようなアイコン的な有名な、名品もいくつかは夢く消えゆくことあることを拾って、可愛く描きたいと思いました。さらに優さをより強調しつつ西洋と東洋の語彙を混ぜ合わせるべく、ヴァニタス画のモチーフのひとつであるシャボン玉も登場させてみました。(掲載画像は個人的に最も印象深いシャボン玉の西洋絵画byシャルダン)。
14		山田航平 Kohei Yamada	絵画 Painting	火宅無常ワールド (サヴォア) KATAKU MUJO World (Savoie)	アクリル、紙 Acrylic, paper	2023 91.0 × 72.7 cm (F30号)	抽選販売 http://bunkyo-art.co.jp/artists/KoheiYamada.html
15		川俣正 Tadashi Kawamata	ミクスト メディア Mixed media	(1982.6 ベニス) ベニスビ エンナーレのためのPlanning (1982.6 Venice) Planning for Venice Biennale	アクリル、ペン、鉛筆、 木、釘、合板 Acrylic, pen, pencil, wood, nails, plywood	1982 H42.5 × W52.3 × D4.3 cm	／
16		金子國義 Kuniyoshi Kaneko	絵画 Painting	花咲く乙女たち4 Blooming ladies 4	油彩、キャンバス Oil, canvas	1966 45.5 × 37.9 cm (F8号)	先着順 SOLD. 1936 埼玉県に生まれる 1956 日本大学芸術学部入学。学業と平行して歌舞伎舞台美術家長板元弘氏に師事。 1967 滋澤龍彦氏の勧めで初個展を銀座・青木画廊開催 1975 金子國義展(FUMA Gallery) 2014 「美少女の美術史」(青森県立美術館、静岡県立美術館、島根県立石見美術館) 2019 「美少女の美術展」(北師美術館/台北) 2022 「美男におわす」(埼玉県立近代美術館、島根県立石見美術館) 2023 「四谷シモンと金子國義——あどけない誘惑」(下瀬美術館)
17		金子國義 Kuniyoshi Kaneko	絵画 Painting	ぼくのサーカス My circus	油彩、キャンバス Oil, canvas	2006 33.2 × 24.3 cm (F4号)	先着順 他、展示多数 http://bunkyo-art.co.jp/artists/KuniyoshiKaneko.html
18		北彩子 Ayako Kita	ドローイング Drawing	I've been here	鉛筆、色鉛筆、紙 Pencil, color pencil, paper	2024 31.5 × 44 cm	先着順 1981 神奈川県に生まれる 2006 多摩美術大学大学院美術研究科 修了
19		北彩子 Ayako Kita	彫刻 Sculpture	I've been here	檜、楠、 アクリル樹脂等 Japanese cypress, camphorwood, acrylic resin, etc.	2024 1.5 × W27.8 × D34.7 cm	抽選販売 【作家コメント】 岬にぽつんと建つ灯台に惹かれて制作を始めた。帽子は赤にしよう決めていたが、それは幼い頃見つけた昔の江の島の灯台の姿であることに後から思い当たった。思いがけず自分の心象風景として残っていた記憶が思い起こされることとなった。 http://bunkyo-art.co.jp/artists/AyakoKITA.html
20		鈴木弥栄子 Yaeko Suzuki	絵画 Painting	ガラスの家 Glass House	油彩、綿布、パネル Oil, cotton mounted on panel	2024 53.0 × 41.0 cm (P10号)	先着順 1979 神奈川県に生まれる 2005 東京芸術大学大学院美術研究科修士課程油画専攻 修了 【作家コメント】 今回、「建築・住居」をモチーフにした展示ということで「記憶の中の家」をテーマに描きました。 私の夢の中では時間の感覚はなく、昔住んでいた家や街、駅、学校などがごちゃ混ぜに登場します。もうなくなってしまう家にごく当たり前に生活しています。私の大母は晩年認知症を患い、家にいるのにいつどこかに「たぶん、もうない家」に帰って行きました。一生の間に多くの人が住居を築き、それぞれに記憶の中の家というものがあるのだと思います。また戦争や災害によって一気に失われてしまうものとして、ガラスの家を現実と非現実の合間に存在するように鏡像で表現しています。 http://bunkyo-art.co.jp/artists/YaekoSuzuki.html

作品の問い合わせは、メールまたはお電話で
fuma.con6@gmail.com | 03-6280-3717
<http://www.bunkyo-art.co.jp>